

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 21年 2月 23日
事業所名	グループホームいだか
ユニット名	ユニット1
事業所番号	2371500077
記入者名	職名 管理者 氏名 林 亮介
連絡先電話番号	052-769-6151

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念として、「ゆったりと、自由な暮らし」「穏やかで、安らぎのある暮らし」等9項目をつくり、掲げている。運営理念は開設当初から独自の理念として継続している。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>ユニット内、及び職員ロッカー内に理念を掲示している。いつでも理念を振り返る事ができるようにしている。</p>	<p>月に一回のミーティングを定期的に行き、理念の共有を図って生きたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には、入居時に説明している。また、パンフレットへ理念を掲載し、入居希望者、見学者へ説明している。利用者の外出時には職員が地域の方へ理念について話を行うようこころがけている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>玄関清掃時等、隣近所の人、ホーム前を通られる地域の方へ挨拶等交わしている。散歩道が通学路となっており、下校中の小学生とふれあえる機会ともなっている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会への加入。定期的な自治会での公園清掃へは管理者が主として参加している。清掃後近くの喫茶店での交流の場に参加させていただいた。</p>	<p>公園清掃等の地域活動への管理者と職員の参加。公園清掃に加え、学区主催の地域活動への参加。毎月恒例の納涼祭に地域の方を招いて合同で行いたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の暮らしへの支援は取り組めていない。地域の高齢者との会話を行う等にとどまっている。		認知症、介護技術についての勉強会等の開催。地域への啓蒙活動。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価実施の意義は理解できている。評価をいかした具体的な改善はできるかぎり行っている。、職員が自己を振り返る機会となり、具体的な改善への第一歩となっている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年に4回の運営推進会議では、ご家族・地域の皆様からの意見をサービスの向上に活かしていけるよう努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	名東区事業者連絡会に加入している。名東区事業者連絡会主催の定期的な会合し、市町村担当者と意見交換を行った。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	自主的な研修会への参加にとどまっている。		職員研修・勉強会での学習機会の確保
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主的な研修会への参加にとどまっている。事業所内では、介護者が孤立しないようお互いに声を掛け合うようにしている。		職員研修・勉強会での学習機会の確保

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>定期的な家族連絡会を開催したい。ご家族へも、サービスの内容、意見、不満、苦情などが無いが尋ねていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>柔軟な対応に向けた勤務調整、体制作り。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職については利用者のダメージが最小限に防げるよう、経験ある職員がフォローに入る等配慮してる。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自主的な研修の情報、テレビ番組等の情報があれば職員に伝わるようにしている。研修を受けた際は、研修報告書を作成し、いつでも報告書が閲覧できるようにしている。		同法人施設、姉妹法人施設への見学や研修。職員のスキルアップ、介護の質の向上の為に勉強会や講習会を開催したい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名東区事業者連絡会での入所・通所部会での会議に参加し、同業者と意見交換、交流している。		近隣の同業者との意見交換・交流。職員の参加の機会の確保。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスを感じても、一人で抱え込まないように、話合いの場を持つなどの環境づくりに努めている。		同法人施設、姉妹法人施設との交流の場を持ち、職員が孤立しない環境づくり。休息できる時間の確保。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格試験の案内、願書・テキスト請求等を行う等、職員が向上心をもって働けるような環境づくりに努めている。職員一人ひとりの能力、個性が活かされるよう努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居希望時及び契約時に本人との面談を行っている。認知症状の為、本人から困っていること、不安なこと、求めていること等が表現しにくいことは、家族、入居前に利用しているサービス提供事業者の担当者からも情報を聞き、本人の負担が最小限になるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学時、契約面接時には時間をゆっくりかけ、家族等の不安、意向が表出できるよう努めている。ご家族が訪問された時に話しをする機会を作っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>管理者、計画作成担当者が相談に対応し、必要とされる支援に結び付けられるよう努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に、ご本人の生活状況を独自のアセスメントシートを用いて職員へ伝えている。あらかじめ配慮が必要と思われる事は、家族、職員で申し送りを行い利用の準備を進めている。本人の安心が保たれるよう、馴染みのある職員が対応する等の工夫をしている。サービス開始時には常に目を配るように工夫している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家事活動において、利用者と職員が一緒に行っている。利用者の特技、趣味等は生活の中で楽しみ、職員の学びの場ともなっている。共に食事を共有し、話合う時間を作り、一緒に時間を過ごす努力をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでは本人の要望に応じられない場合は、家族の協力を依頼している。恒例行事には家族の参加を呼びかけている。		ご家族が参加できる行事、ご家族と過ごす時間を増やしたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は、本人と家族がプライベートな時間を持っていただけるよう居室にての話をしている。面会、外出には本人の体力を配慮するが、特別な制限は設けていない。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の精神状態に配慮し、可能な範囲で支援している。家族の協力もいただいている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	座席の配置等で利用者同士の関係に配慮している。居室での会話等で個別に関わる機会を大切に、利用者同士の関係が保たれるよう支援している。集団生活なので、色々とトラブルもあるが、その時々で解決するように努めている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	可能な限り関係の継続に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向や思いが反映されるよう努めている。本人の仕草、行動、会話から、本人の意向がくみ取れるよう、日々の申し送りにて検討している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>過去の生活歴・生活環境が把握できるよう、独自のフェイスシートを用いている。家族との面会時の会話、また、ケースファイルに過去の生活歴・生活環境、サービスに至るまでの過程等をはさみ、いつでも振り返りができるようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人の状態が総合的に把握できるよう、身体面・精神面等について個別のアセスメントシートを作成している。申し送り、記録のチェックを徹底している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族の意向が反映された計画書となるよう努めている。定期的な会議にて意見、アイデアを出し、情報交換し、計画作成担当者が作成している。</p>	<p>今の本人の状態を知るということを視点に意見交換できる場を作っていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>本人の状態の変化から新たな介護計画の作成には至っていない。</p>	<p>利用者の状態変化に伴う、介護計画の見直し、作成。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を把握する為、独自のアセスメントシートを用いるとともに、特記的なことは、文字の色を変えて日々の様子を個別記録に記入している。利用者様がされた事、言われたことをなるべく記録に残す努力をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護事業所と併設されている為、利用者の行き来も良くある。気分転換が図れたり、社会性を維持できる効果がある。ご本人の状態に応じ、他ユニットへ場所を替えて過ごしていただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に一回、定期的なボランティアを招いている。その他、地域の大学への学園祭参加や交流のあるボランティアを季節の行事に合わせて招いている。民生委員、警察、消防機関と協力する取り組みはできていない。		地域資源への働きかけ。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	区の事業者連絡会を通して、意見交換を行っている。事業者連絡会の分科会である部会にて意見交換を行っている。利用の際はサービス提供事業所へ出向いたり情報交換に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、地域包括支援センターとの協働はない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週1回の往診時にかかりつけ医からアドバイスを頂いている。必要に応じ、認知症に詳しい専門医への受診も行っている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医への受診支援を行っている。受診の際は本人の精神状態、体力に配慮している。専門医からのアドバイス等は職員間で共有できるよう努めている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回のかかりつけ医の訪問看護時に看護師と意見交換している。日常の健康管理から、医学的なアドバイスを聞ける機会がある。職員が困ったことがあれば、電話をして相談を行い、指示を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時にはグループホームでの生活状況が入院先に伝わるよう情報提供に努めている。入院先での生活状況、本人の状態については病院関係者との情報交換に努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態に変化が見られた場合はその都度、職員の間で情報交換している。		定期的な家族との連絡会の開催。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、かかりつけ医と情報交換している。今後の変化に備えての検討や準備は十分に行っていない。		定期的な家族との連絡会の開催。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、食器洗い、食器拭き、台拭き、収納等、一連の家事活動から、できる力に応じて一緒に行っている。利用者の意向・好みを献立に反映している。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	身体状態、本人の意向に合わせて、嗜好品が楽しめるようにしている。		本人が食べたいものをじゆうに食べられるようにしたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用いて、本人の排泄パターンに応じた声かけをおこなっている。尿意の無い方へは、本人の仕草や行動から尿意をくみ取り、不快を感じないように努めている。できる限りおむつやリハビリパンツを使用しないでトイレ誘導で対応している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則、2日に1回の入浴となっている。時間帯は、本人の体力、意向にできるだけ沿えるよう努めている。希望に添えない時でも、本人の意思は尊重している。		本人の意向に応じた入浴の実施。時間や日にち等を決めずに自由に入れるようにしたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の体力、生活リズムを把握し、ソファ・ベッドへの短時間での休息のお誘いもしている。安眠できるよう就寝時間にも配慮している。寝具の清潔な管理、照明、湿度、室内温度に配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事活動、生活歴からの得意な事、趣味から役割を見つけている。本人の役割、その日、その時の笑顔、満足感を大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則、施設で行っている。金銭管理能力に応じ、少額を所持している方もいる。買い物外出時等にご自分で支払って伊いたたりとして支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ本人の希望にそって戸外にでかけるよう努めている。本人の身体状態・精神状態によっては、個別での散歩、ドライブに出かけることがある。現状、ご家族の付き添いのもとでは行われている。天気や職員人数に左右されることがある。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	仲の良い方2～3名程の小グループで出かけることもある。個別の外出については、普段行けない場所への外出は計画して出かけることもある。家族へ相談して行っている。		以前は月に一回は外食の機会を作っていたが、最近に行く回数が減ってしまったのでもっといけるように計画したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話にて家族や大切な人と話を行えるよう支援している。手紙、年賀状にてやり取りを行われている方もいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特に定めていない。居室での談話、居間での交流が図れるよう、交流場所を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		ひとり一人の状態に合わせた個別の事故防止への取り組み。
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		定期的な勉強会の実施。かかりつけ医の医師・看護師による研修会の実施。応急手当や初期対応の訓練の実施。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		災害時の対策。地域への働きかけ。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	その日、その時の身体状況の変化に伴うリスクについてはその都度、家族と連絡をとり、理解と対応策を話し合っている。面会時等の機会を通じて話をするようにしている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎朝の血圧・体温測定、顔色、入浴時の身体状態の確認を行っている。申し送り、上司への報告の元、かかりつけ医との24時間連絡体制も活用し、速やかな対応に努めている。	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	処方箋を確認し、行っている。薬の変更などがあつた場合は、記録を残すと共に、申し送りを行っている。個人ファイルに薬の情報をファイルし、職員誰もが見えるようにしている。	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	排便チェック表を用いて、排便の状態を把握している。便秘予防の為、食物繊維の多いもの、水分補給、体操等の機能訓練の実施に努めている。かかりつけ医とも相談して。個々人の状態にあわせ、便秘薬(センナ茶)等服用している。	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	起床時、就寝前の義歯の管理、口腔ケア介助を行っているが、毎食後の口腔ケアは利用者自身の意向にまかせている。必要時は、歯科医師の診察のもと、指示を頂き対応している。	毎食後の口腔ケアの声かけ、実施。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事摂取量についてはケース記録に毎食後記載している。水分量については一日三回の水分補給に水分が確保されるよう声かけするとともに、摂取の少ない方へは、お好みの飲み物を提供するなどし対応している。必要に応じ、水分量も記録している。	お一人お一人が食べやすい食事を考える工夫をもっとしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、利用者・職員インフルエンザ予防接種を同意を頂き実施している。その他の感染症については、かかりつけ医とも情報交換を行い、対応している。ノロウイルス感染症、食中毒の予防については、名東保健所主催の研修会に参加し対策を行った。		感染症に対する勉強会の開催、マニュアルの作成。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、台拭き、ふきん、等の調理用具は毎日消毒している。週3回の食材の発注・納入を行うと共に、食材の使用時は賞味期限を確認する等、食材の安全な使用、管理に努めている。食材を扱う時は、手洗い・手指消毒を徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはプランター、傘立て、ベンチを置いている。趣味の作品等も展示している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内の照明は、間接照明となっており、光が刺激とならないよう配慮している。トイレには消臭剤を使用している。それぞれの場所で生活感や季節感を感じられるよう、毎月のカレンダー、人形の置物や生け花、趣味の作品等展示している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置等で利用者同士の関係に配慮している。共用部の一部に畳敷きのスペースを設けており、利用者同士のくつろげる場所となっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 す る 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)